

特集にあたって

札幌麻生脳神経外科病院 飛 驒 一 利

脊椎脊髄の嚢胞性疾患は、外傷、炎症、先天奇形など、さまざまな原因によって形成されるが、比較的まれな疾患であるもののMRIの普及により日常診療で遭遇することが多くなってきている。髄液との関係が深い疾患があるものの、ときに画像上、診断にまごつくものもあり、その症状もさまざまである。今回、嚢胞性疾患の代表的なものを取り上げ、病態および治療法について、それぞれのエキスパートより各々の工夫を含めて取り上げていただいた。

山口 智先生の脊髄くも膜嚢胞は、くも膜嚢胞自体がMRIで直接見えないことから、画像診断の難しさ、開創・切除範囲の決定、色素を使った術中診断、術後の画像と臨床所見の解離について述べている。

笹森 徹先生の脊髄硬膜外嚢胞は、比較的まれな本疾患について、その etiology、臨床像と治療法について述べている。

伊東清志先生の neurenteric cyst は、本疾患に対する詳細な説明と好発部位でもある頸髄腹側の病変に対し、前方および後方からのそれぞれのアプローチにおける術中所見、特に後方では再発が多い点について述べている。

栃木 悟先生の perineural cyst は、無症候の病変が多い本疾患について、増大の機序、臨床症状、さまざまな治療方法について述べているが、治療については議論が多い疾患といえる。

高橋敏行先生の椎間関節嚢腫は、脊椎外科医にとっては本特集の中で最も頻度が高い疾患であるが、疫学、臨床症状、画像所見、治療法などを多くの文献を紹介しながら明快に解説していただいた。

渡辺航太先生の discal cyst は比較的新しい疾患概念で、椎間板の変性に伴う病変であるが、病態、臨床像、治療についてまとめて述べていただいた。

以上、脊椎脊髄周囲の嚢胞性疾患を今回まとめていただいたが、読者の皆さんのお役に立てれば幸いである。